

## ▼ 再開発のあゆみ ▼

- 昭和63(1988)年** 市街地再開発準備委員会が発足。約21haもの広域な計画であったことや、バブル崩壊による景気低迷などで凍結
- 平成16(2004)年** 地元団体の要望活動が活発化。まちづくりの検討を再開
- 平成22(2010)年** 地元有志らがまちづくりの説明会や勉強会を行い、市街地再開発に向けた取り組みを開始
- 令和元(2019)年** 6月、厚木駅南地区市街地再開発組合を設立
- 令和2(2020)年**



7月、既設建物の解体工事や道路、駅前広場などの工事に着手



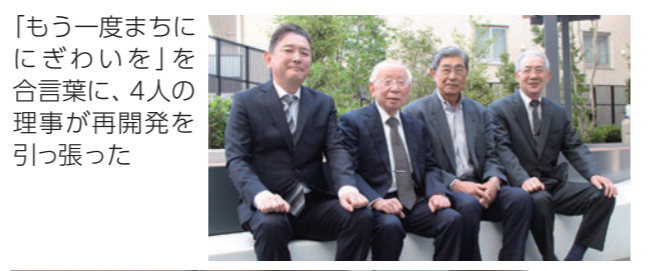
4月、起工式。住居棟、商業棟、駐車場棟の工事に着手



9月、住居棟が上棟。建築工事が最盛期を迎える

**令和5(2023)年** 6月下旬、市街地再開発の工事が完了。現在に至る

あり、だんだんとまちのにぎわいが失われていきました。再開発の話は昭和63年から何度かありましたが、非現実的な規模だったり、バブル崩壊があったりと実現に至りませんでした。何とかしなきゃと地元の人はみんな感じていたと思います。今回の再開発はタイミングよく進んでうれしかったです。住居だけでなく、今までなかった駅前広場などを盛り込むことができました。人やまち、交通などを介して多くのつながりを生むことを期待し、まちの名称を「ファーストリンクテラス」と名付けました。これからは、周辺地域と一緒に発展することで、にぎやかなまちが復活することを願っています。



「もう一度まちのにぎわいを」を合言葉に、4人の理事が再開発を引っ張った

**インタビュー**  
厚木駅南地区市街地再開発組合の石川理事長に、厚木駅周辺の変遷や再開発に込めた願いを聞きました。

**厚木駅周辺のにぎわいを願って**

厚木駅周辺は江戸時代の頃から交通の要衝でした。子どもの頃は商店街が並んでいて日常の買い物には十分でした。にぎやかな印象でしたが、海老名駅が現在の場所にできてからは横浜方面に行く人が増え、人の流れが変わりました。同じ頃に物流が貨車からトラックに変わったことも



これまで市が行ってきたまちづくりは、海老名駅西口地区のように、農地や利用されていない土地などを宅地にして新たにまちをつくる「土地区画整理事業」と言われる「開発」でした。厚木駅南地区は、元々あった建物の敷地を統合し、土地の利用方法を見直して、道路なども併せて整備する「市街地再開発事業」と言われる「再開発」で、本市初の挑戦でした。これにより、居住世帯は約8倍になり、ロータリーを備えた駅前広場（4・5頁）が誕生します。

## 市内初の市街地再開発事業

# 厚木駅南地区市街地再開発

7月6日、駅前広場を供用開始

市街地整備課 ☎(235)9605

小田急線とJR相模線が交差する厚木駅の駅前には、地域の拠点でありながらも、建物の老朽化や駅前広場がないなどの課題を抱えていました。課題を解決し、住みやすくにぎわいのあるまちを目指して、令和元年に組合が設立され、市内初の市街地再開発事業を行いました。生まれ変わったまちの概要をお知らせします。

